

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第3回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 令和元年度地域活動支援事業について（報告）（公開）
- (2) 今後の自主的審議について（金谷区の地域課題「移住・人口対策」）（公開）
- (3) 今年度の出張地域協議会について（公開）

3 開催日時

令和元年6月26日（水） 午後6時00分から午後7時30分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、
石野伸二、牛木喜九、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、西条聖士、
山口茂幸、吉村清正
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・ 高宮会長、伊崎委員、伊藤委員、桑山委員、土屋委員、永野委員を除く10人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条1項の規定に、議長は会長が務めることとあるが、本日は高宮会長が欠席のため、地方自治法第202条の6第5項の規定により、副会長が職務を代理することになり、両副会長の合議の結果、村田副会長が議長を務めることを

報告

【村田副会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：西条委員、山口委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・ 資料により説明

【村田副会長】

- ・ 事務局の説明について質疑を求めるがなし

— 次第3報告（1）令和元年度地域活動支援事業について（報告） —

【村田副会長】

次第3報告（1）「令和元年度地域活動支援事業について（報告）」に入る。

事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

- ・ 資料No.1により説明

資料No.1は、本日の会議終了後、各提案団体に送付する。

また、前回会議で委員から、「中ノ俣古道整備事業」のモニター散策会の宿泊費について、「補助対象経費として認めてよいのか。」との質問に対し、「詳細について再度調査し、後日報告する。」としていたため、その件について報告する。

宿泊費について提案者に確認したところ、この散策会は、1日目に正善寺の古道を通過して中ノ俣に登り、2日目に新たに整備した古道を散策する行程であり、中継地となる中ノ俣で1泊することも行程の1つになっている。また、収支計画には、夕食・朝食・昼食付の宿泊費として「1日1人5,000円」が計上され、うち1,500円が食事代であり、その1,500円は、「散策会参加費」として参加者から徴収してまかなうとのことであった。

以上の内容を自治・地域振興課にも確認したところ、食事代は補助対象外だが、

宿泊費については、散策会において必要な経費であれば補助対象になるとの見解だった。

よって、行程上1つのパッケージとなっているという合理的理由があることから、この宿泊費は、事業実施に必要な経費として補助対象になると判断し、提案書どおり採択しても問題ないと考えている。

ちなみに、宿泊費を補助している例として、三郷区の地域活動支援事業で、対象者である子どもと保護者が南葉高原キャンプ場に1泊するという事業があり、2日間のバンガロー使用代を補助している。

【村田副会長】

事務局の説明について質疑を求める。

【石野委員】

宿泊費について、私が携わっている「里道（旧後谷線）の整備事業」の関係で、子どもたちを対象に、里道を散策し、後谷を見て、キャンプ場に泊まり、次の日に登山をする内容であれば、その宿泊代は補助金から支出できるということによいか。

【堀川センター長】

「中ノ俣古道整備事業」と同様に、それが1つの関連した事業であり、地域協議会の審査で認められれば問題ない。

【石野委員】

要は、主催者が提案団体であればよいということか。

【堀川センター長】

それが1つのパッケージになっている事業であれば問題ない。山に行くのに高田のまちに泊まる、といったことであれば別の話だが、1つの行程であればよい。

【高橋委員】

キャンプ場に1泊するというのは、いつ頃の話で、何人くらいか。

【小林主任】

三郷区のその事業は、今年度の日程は確定していないが、昨年度は6月の後半で、20人くらいだった。

【齋藤委員】

例えば、この事業が天候の関係で中止になった場合、どのような扱いになるのか。

【小林主任】

提案書で予定されていたことが何らかの理由で実施できないとなった場合は、市に変更承認申請書を提出する必要がある。それについては、必要であれば地域協議会にも確認することになっているため、大幅な変更がある場合は地域協議会にも諮ることになる。

【石野委員】

事業費の3割を超える変更があった場合に手続きが必要になるのだろう。

【小林主任】

変更承認申請が必要になるのは、事業費の3割を超える増減を行う場合、または事業の目的達成に影響がある変更を行う場合である。「中ノ俣古道整備事業」については、モニター散策会をすることは大きな活動の1つと考えており、それがなくなるとは事業全体に大きな影響があると考えられるため、変更承認申請の手続きが必要になると考える。

また、考えられる事例として、天災等によりやむを得ず中止になった場合は、変更承認申請書とあわせて、事故報告書の提出が必要になる。事故報告書には、中止になった理由を記載するようになっており、その内容は地域協議会にも報告する。

【齋藤委員】

散策会も重要な活動である。例えば太鼓の演奏も、何らかの都合で中止になることがあると思う。

【村田副会長】

いずれにせよ、事務局が提案団体と連絡を取り合い、適正に対応していく。

【石野委員】

「中ノ俣古道整備事業」の宿泊費は3,500円だが、上限はあるのか。

【小林主任】

上限は定めていないが、社会通念上、適正かどうか、個別に判断する。

【川住副会長】

順位が下の事業は減額幅が結構大きい。減額によって事業そのものに支障をきた

すという意見は提案団体から事務局に寄せられているか。

【小林主任】

各提案団体には、採択された金額を通知して、それを基に事業内容を修正し、補助金交付申請書を提出してもらっている。団体から事業の実施に支障をきたすといった話は聞いていない。

【石野委員】

今回、宿泊費について補助してよいか質問したが、備品購入などの取扱いについて、次年度以降も地域活動支援事業があるか分からないが、地域協議会としてどう扱うかについて協議する場をどこかのタイミングで設けてほしい。

【村田副会長】

備品購入や宿泊費の取扱いについて、再度確認するという事で、課題として次年度につながるようにしたい。

【石野委員】

決まったことは、募集要項に載せる必要がある。

【村田副会長】

それは課題として、今後協議したい。

— 一次第4議題（1）今後の自主的審議について（金谷区の地域課題「移住・人口対策」） —

【村田副会長】

次第4議題（1）「今後の自主的審議について」に入る。

本日は、金谷区の地域課題「移住・人口対策」について、自主的審議に取り上げるかどうか協議する。

前回の会議や、今回の会議の案内の中で、あらかじめ意見をまとめてきてもらうようお願いしてあった。まとめてきた意見を各委員から発言してもらう前に、資料No.2について事務局から説明してもらい、その後各委員の意見を聞きたい。

資料No.2について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

・資料No.2により説明

【村田副会長】

資料No.2を参考にしながら、各委員から意見を述べてもらい、自主的審議に結びつけるかどうかを決めたい。委員に意見を求める。

【石野委員】

一昨年前、病児保育の関係で、直江津地区には「わたぼうし病児保育室」があるが、高田地区にはないため、その辺を自主的審議に取り上げたらどうか提案したが、課題のまま、ずっと来てしまった。資料No.2の取組(案)に、「子育て当事者への聞き取り」という項目があるが、近くの大谷保育園にある子育て広場には、母親と子どもが来て遊んでいるため、そこにアンケート用紙を置いて書いてもらい、そこから上がってきたものをもとに判断したらどうか。

【村田副会長】

石野委員は、前向きに捉えて、自主的審議事項につなげていくという意見か。

【石野委員】

それができる中身が上がれば。

【牛木委員】

子どものことになると、縁遠いような気がしている。移住者については、私が知っているだけでも中ノ俣に3家族が来ているが、子どもが増えるような環境ではない。中ノ俣は年寄りばかりで、周りのことが分からない。

【村田副会長】

中ノ俣では、3軒の居住者が増えたということ。

【牛木委員】

その分年寄りはいなくなるため、減る一方で残念である。

【齋藤委員】

飯の戸数を見れば、以前の一番多い時は75軒くらいあったが、5軒ほど減り、70軒を切ってしまうと思った。それから空き家に入ってくる方がいて、今は同じ75軒になった。ただ、戸数的には同じだが、団塊の世代の子どもが結婚しない。何とかしたいと思って、本人、家族、いろいろな方が携わり、やっているのだろう

が、結婚しないことにはどうにもならない。我々団塊の世代から見れば、子どもたちは確かに減っている。自然減はあるが、結婚して、所帯を持って、子どもを作っていけば、ここまで落ち込まない。高齢化と少子化のダブルパンチになっている。政府は、昨年から具体的な対策に取り組んでいる。これも1つの人口対策なのだろう。ちゃんとした職に就いていないと所帯は守っていけないため、そのような人たちをサポートしていくというのが、国の対策の大事な柱なのだろう。どこかにたくさん人が集まれば、どこかが減ってしまう。お互いに人口を取り合うことになれば、何の対策にもならない。いろいろな大企業を誘致しても、それをやれば他のところの人口が減る。結局、対策が人口増に結びついていかない。地域の少子化ではなく、国の話になっている。自分の足元を見れば、結局国の話と一緒にってくる。国は国、うちはうちで、我々の地域だけ何とかすればよいという考えもあるが、全部関連性がある。

【高橋委員】

子育て環境については、最近小中学校の授業料無償化も進んでいると思うし、各教室へのエアコン設置が進んできている。それから、私が町内会長に就いた時から、地域の子どもは地域の宝ということで、いろいろ対策を考えて、町内会の事業計画に入れてやってきたが、それがよかったのか悪かったのか、今反省している。せっかく立派に育った子どもが、高校を卒業すると地元からいなくなってしまう。これが一番の問題である。何のために今まで地域の宝だと言って育ててきたのか。例えば上越市の雪対策で除雪機をたくさん用意しても、運転する人がいない。これでは除雪ができない。勉強が好きな子は勉強を、機械やエンジニアに興味のある子はそちらを、各々の子どもに合ったところを伸ばしてほしい。それにより、子どもがのびのびとして授業ができるし、「私は将来こうなりたい。」という希望を持つようになる。ただ紙の上で点数を付けられて、「あなたの成績は何番だ。」と言われても、子どもが育つわけがない。「自分は頭を使わずに体力で仕事をする。」、または、「私は手先が器用で機械いじりが好きだ。」、という子にはそちらを伸ばしてあげれば、多少は地元に残るのではないか。今はとにかく学歴を重視するばかりで、本当に情けない時代になったと思っている。

私は「災害対策と人口を考える会」という団体を立ち上げ、今も継続して活動している。明治41年に旧陸軍第13師団が高田に来た。現在、約1,000人が高田駐屯地に駐在している。その人たちは、ほとんどが宿舎にいるが、県外の人が多く、上越市に住所を移し、こちらで納税している。第13師団の規模が3,000人クラスであり、現在の高田駐屯地を3,000人にすれば、2,000人増える。今の上越市の人口は19万8,000人であり、そこから2,000人増えれば20万人になる。そのように、隊員を増員すれば、お金をかけずに人口が増え、納税も増える。うちの町内にも、自衛官と結婚されて、新しい家を建てて住まれている夫婦が5~6軒ある。自衛隊のOBを含めると、10軒ほどうちの町内に住んでいる。他の委員の町内にも、自衛隊の関係者が恐らく住んでいると思う。第13師団が入る前は、高田の城下町は下火になっていたことから、当時の首長が「高田を京都並みの人口にまた戻したい。」という願いを込めて、師団を招へいし、高田のまちを復活することができた。これによって、高田のまちにどれだけ利益があったかという、隊員の食として、味噌、米、醤油、野菜などは、全部地元の人が納めていた。今の自衛官は、ふるさとに帰るのに土産を買っていく。また、父母を呼んだり、佐渡に招待したりする人もたくさんいるだろう。それから、去年の西日本豪雨や、その前の東日本大震災で遠征となると、500人くらいが災害派遣される。そのあいだにこちらでも災害が起きたらどうするのかということで、高田駐屯地の自衛官を3,000人くらいに増員してもらいたいという嘆願書を県と国に、昨年4月に600人近くの署名を集め、市長宛てに提出した。市長も了解してくれて、県に要望を上げてくれた。上越市が要望を上げた結果だが、現在、日本において、自衛力を付けるべき地域というのは、北朝鮮に近い東シナ海周辺であり、上越方面に力を入れるのは、この先になる旨の回答をもらっている。これは私の個人的な意見と活動であることから、同様の活動を金谷区地域協議会でやっていくことはできない。

空き地・空き家については、うちの町内では少ないが、そのうち増えるかもしれない。今、金谷区で人口を増やすなら、早い話が、宅地造成をすれば人口が増える。平山町内では、200軒くらいだったのが、800軒近くになっている。そのくらいの勢いで宅地造成をすると、人が集まってくる。また、山麓線沿いは住宅を建て

るのに向いている。買い物や交通も便利になり、医療関係も充実してきている。

【村田副会長】

有意義な話だが、今日は、金谷区地域協議会が今後どうしたらよいか、あるいは何ができるのか、というところに結び付けたいと考えている。

【竹内委員】

私も高齢になり、夫婦2人だけの生活であるため、子育てといってもなかなか実感がわいてこない。まずはその実態を専門家から教えてもらえれば、少しは理解できるのではないかと。御殿山町に子育て支援について一生懸命取り組んでいる方がいるので、そのような方からまず話を聞き、現状を聞く。私たちの年齢になると現状が分からない。子育てについて現状を説明してもらった後に、どのようにして人口減少対策に結び付けるのか、ということを経験していきのがよい。

人口減少対策については、数年前に、上越市創造行政研究所の方に来てもらい、金谷区の現状に関する勉強会を行ったことがある。市内の他の区から金谷区に人が移って来ているとのことであり、町内会でいうと、金谷、平山や、昭和町2丁目の線路沿いの地域や寺町3丁目に近いところで、今子どもが増えているとのことだった。まず、そのような現状を研究員の方から聞き、現状を把握してから論議した方がよいのではないかと。

空き家・空き地については、うちの町内でも空き家が出てきている。このあいだ老人会の旅行に行ったが、13人の出席のうち、9人が一人暮らし。その方が亡くなればそのまま空き家になる。空き家にならないうちに対策をした方がよいのか、空き家になってからそこに入ってもらう支援をした方がよいのか、その辺はなかなか難しい問題だが、地域の現状としてここまで来ていることを考えると、やはり今のうちに何らかの対策をしなければ、昭和町のように古い町内は、どんどん人口が減少するだろう。多い時は1,030人くらいいたが、今は950人を割った。学校のクラスで言うと、2クラス分の人口減少が起きているため、このような問題についても、真剣に考えていかなければいけないと感じている。

【西条委員】

私は、移住希望者に対する支援が重要だと思う。私も移住者である。この10月

で、平山のウエストニュータウンに来て5年目になる。大町から移ったため、歩いて15分もすれば実家に戻れるが、町中だと家が手狭になったりする。子育てをしている人に聞くと、「親と住んでいたが手狭だからこちらの方に家を建てた。」という話を聞く。今、我々の世代は結構家を建てて住んでいる人が多い。また、ウエストニュータウンでも、貯水池があったところがいつの間にか埋め立てられて家が建っていたり、逆に増えているような状況なので、「平山は住みやすい。土地が空いている。」と宣伝すれば、移住を考える人は結構いるのではないか。

空き家についてだが、私が家を探していた時には2軒の空き家があり、そのうちの1軒を選んだ、という経緯がある。除雪をしなければいけないが、静かでよい。住めば都という言葉もあるので、なるべくお金をかけずに、ということであれば、先ほどアンケートという意見があったが、何か考えてもよい。具体例は出ないが、そのようにして移住者を集めるのもよいと思う。ただでさえ少ないパイを取り合うことになるが、金谷区の利益を考えれば、「ぜひ来てほしい。」というPRは必要かと思う。

【山口委員】

現状を見ると、独身者が多く、結婚したがる。なぜかという、やはり経済的な余力がないということと、結婚するよりも独りで働いて遊んでいた方がよいというのが、聞いてみると本音のようだ。そして、結婚して家を建てても、手狭な家しか建てられないため、子どもは1人か、せいぜい2人になる。両親と暮らしていれば3人目も考えられるが、なかなかそうならないのが現状である。また、団地が1つできれば人は増えるが、子どもが大きくなると、市外の大学などに行き、もう戻らないというのが実態である。うちの町内も、元々は70戸～80戸くらいの世帯だったが、地域の開発により人口が増え、今は倍近くになった。私たちの頃は、独身でいると、近所のおばあさんがお相手を紹介してくれたが、今それはやらない。紹介すると、何か嫌なことがあると今後関わらないといけないということで、ボランティアで相談してくれる人はいなくなった。そのため、全てのサイクルが悪い。昔のように親子何世帯も一緒に住めば、協力することができたが、今は核家族になっているため、家族を守るだけでも大変であり、他人のことは構ってられない。

また、正社員に就けないといったことがあるが、これは全国的な問題だと思う。ある町内が増えると隣の町内が減るようなことになる。これは大変な問題であり、国の政策で何とかしないとイケない。地域協議会だけで金谷区の人口を増やすことは、難しいと思う。権限も金もない。高橋委員のようによい案があっても、取り上げてくれないということであればうまくない。根本的に考える必要があり、金谷区地域協議会として論議しても課題解決することは難しいのではないかと。

【吉村委員】

スケールの大きい問題であり、結局、国の政策の問題である。金谷区に限らず、全国どこでもこのような問題があり、本やテレビでも取り上げられている。具体的に言えば、魅力的な求人、労働先がない。大企業を誘致するなど、労働先の確保が必要である。それがなければ、よい高校を出ても、大学に行ったきり帰って来ない。

「自分のやりたい仕事は上越にはないから。」ということになる。

それから高橋委員も話していたが、居住スペースの確保。住むところがいっぱいあればよい。だいたいの方は便利な方に出て行ってしまふのだけれど、それでも宅地造成をすれば、そこには必ず何棟か建つ。そして、金谷区の外から来る人も、中には何人かいる。働くところがあり、住むところがあれば、自然と世帯が増えるため、子どもも増え、将来の労働力になる。そうすると、次は、子育て支援はどうするか、という話になる。我々や我々の先輩から見れば、今はものすごく充実していると思う。教育費や医療費の面から見ても、子どもは育てやすくはなっている。18歳まで教育費や医療費がかからないということになれば、1人のところが2人に、2人のところが3人に増えても、体力的、物理的な負担はあるかもしれないが、やっていけるのではないかと。子どもを育てるには、とにかく金がかかる。

大まかにはそのような項目分けになるが、誰が大本で主導権を取っているかというところ、国の方針、国策である。そうすると、このテーマはスケールが大き過ぎて、手も足も出ない。課題は挙げられるが、解決策を導き出すのは難しい。

【村田副会長】

吉村委員には、最終的にまとめてもらったような感じがした。従って、金谷区地域協議会がこのテーマを取り組んで自主的審議事項に結び付けるのはいかなるも

のかという意見が多いように感じる。

【川住副会長】

私は金谷区の南部、黒田小学校を中心としたエリアに住んでいるが、ちょうど黒田小学校の前に、新しい家が3軒建った。これは画期的。黒田地区は昔から世帯数が変わっていなかったが、最近家ができた。

【石野委員】

造成したわけではない。元々畑や山林だった土地を購入して、家を建てた。3年前からだ、予定も合わせて8軒になる。

【吉村委員】

地元の人か。

【石野委員】

いろいろなところから来ているが、ほとんどが上越市内の人である。

【川住副会長】

それは金谷区以外から来た人か。

【石野委員】

金谷区以外がほとんど。自然が近いのと、宅地が安いというのが理由である。

【川住副会長】

それから、中田原の工場跡地が造成され、40軒くらいの宅地になった。即完売だったと思う。もう家を建て始めている。交通の便などの条件を整えば、かなり人口増につながるのではないか。そして、上中田に上越地域医療センター病院を移転させようと運動した場所がある。坪数にすると1万坪以上あるが、あそこについても、区画整理組合で大きな計画があるという噂を聞いた。スーパーやホームセンターがあり、山麓線も新しく4車線化になったため、便利のよい場所にそういった施設を作ると、勤める方もかなり増える。スーパーも長い時間営業しているため、多くの方が勤めているのではないか。

山麓線沿いが上越の中心になりつつあるというか、他のところよりも繁盛している。今ある施設に勤めている人たちが近くに家を建てていて、新しい施設ができればさらに増えるため、今のところ人口が減っているようには感じない。交通の便が

よく、勤め先があれば、人口は増えていくのではないか。

【村田副会長】

- ・ 金谷区の地域課題「移住・人口対策」は自主的審議に取り上げないことでよいか
諮り、委員全員の了承を得る
- ・ 次回は、「携帯電話の電波」を自主的審議に取り上げるか協議することを確認

— 次第4議題（2）今年度の出張地域協議会について —

【村田副会長】

次第4議題（2）「今年度の出張地域協議会について」に入る。

資料No.3について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

- ・ 資料No.3により説明

【村田副会長】

未実施の町内会が、北部・中部・南部にあるが、出張地域協議会というのは、それなりの広さの会議場と駐車場を整えている環境がないと開催できない。中部については、大貫は、こどもの家が町内会館になっている。神山は、駐車場スペースは若干あるが、そこまで広くない。北部では、昭和町2丁目は大きな会議場を有しているが、駐車場に難がある。そこからいくと、南部の中では下馬場が、大きな会議場があり、駐車スペースも確保できるため、南部では下馬場で開催するのが適当ではないかと考える。そうすると、令和元年度の出張地域協議会は、北部・中部は開催せず、1町内会での開催となる。

このことについて、委員に意見を求める。

【石野委員】

現委員の任期中に開催した6か所の出張地域協議会で成果はあったのか。

【村田副会長】

成果を測るのは難しいと思う。金谷区地域協議会の活動を28町内会に少しでも知ってもらうのが、出張地域協議会を行う第一義だと思う。

【石野委員】

出張地域協議会では、本日と同じような会議をして、その後に傍聴人とディスカッションをするが、会議をしている間、傍聴人はただ聞いているだけなので、ディスカッションの時間をもっと増やしてもよい。

【村田副会長】

滝寺では、たくさんの意見をもらったと感じている。

【川住副会長】

私は、灰塚で開催したのが一番記憶に残っている。当時はちょうど防犯灯をLEDに交換する話が出ていた時で、ある傍聴の方から「町内を明るくしてもらいたい。」という意見が出たため、防犯灯をLEDに交換する事業を金谷地区振興協議会で始めた、という経緯がある。このように、委員が思いつかないような意見が出されるため、出張して地元の意見を聞くというのは大事である。

【村田副会長】

過去9か所開催した中に、1か所でもそのような効果があればよしと見てよいのではないか。そのようなことを前提に出張地域協議会を開催したい。

南部では下馬場が適切かと思うが、北部に詳しい委員で、残された町内会でも開催できる町内があるという意見があれば出してほしい。

【竹内委員】

北部の町内会館でも、できないことはないと思う。地元の方は会場まで歩いてくる。委員が停められる駐車場も借りられると思う。上昭和町や昭和町1丁目の町内会館からも近い。

【村田副会長】

昭和町2丁目の会議場も大きい。

上昭和町の町内会館は、こどもの家である。

【高橋委員】

市から会場費が出るのか分からないが、下馬場の会館使用料は高い。

【村田副会長】

会館の使用は有料ということか。

【高橋委員】

前に使用した時、使用料を払った。

【村田副会長】

金谷区地域協議会使用しても有料なのか。

【高橋委員】

確認してほしい。

【石野委員】

向橋町内会館が新築され、11月くらいにお披露目会がある。

【高橋委員】

今年は3か所くらいで開催するのか。1か所なのか。

【村田副会長】

駐車場を借りることができれば、少し歩くことになってもよい。

【竹内委員】

飯の町内会館も近い。

【村田副会長】

飯での開催は可能か。

【齋藤委員】

車の置き場所があれば可能である。町内会館にも4～5台止められる。

【村田副会長】

出張地域協議会の候補町内会としては、飯をまず候補に挙げてよいか。また、南部の下馬場については、町内会館の使用が有料か否かを調べた上で候補にする。

・今年度の出張地域協議会は、飯と下馬場の2か所で開催する方向で進めることでよいか諮り、委員全員の了承を得る

【吉村委員】

地元の方が傍聴に来て、地域協議会の議論は漠然としていて、本当に退屈だと思う。大きな問題について、どのような課題があるのか、どのような対処ができるかどうかについて議論しているわけだが、一般の人は、地域の課題を汲み上げてくれると期待して参加している。地域協議会の趣旨を分かっていない人から「地域協

議会の会議は結論が出ない。」といったことを言われる可能性がある。

【村田副会長】

実際に一度言われた。

【吉村委員】

会議の内容をもう少し考えてもらいたい。

【村田副会長】

例えば、会場になる町内の課題を地域協議会で取り上げて審議できればよいが、そのようなことは可能なのか。取り上げる課題は、町内単位のものでもよいのか。

【石野委員】

1町内だけではないだろう。周辺の町内にも声をかける。

【村田副会長】

2つ、3つの町内で同じような課題が挙げれば、1町内の私事ではなくなる気がする。出張地域協議会では、そのような課題を協議できればよりよい。地域の課題は全て出す必要はない。1つ、2つあれば十分である。

【吉村委員】

せっかく出張するのだから、その地域の課題を掘り下げるのも大事なことである。趣旨の分からない人は、何の会議だろうと思う。

【村田副会長】

そのようなことがないような出張地域協議会にしたい。飯と下馬場には、よく確認してみる。

【高橋委員】

下馬場で開催する場合は、上門前、小滝、下馬場、朝日、黒田にも声をかけてほしい。

【石野委員】

向橋を会場に開催してもよいのではないか。

【川住副会長】

まだ建物が完成していない。

【村田副会長】

第3候補として、向橋も候補に入れておく。

飯について、開催時期はいつがよいか。

【齋藤委員】

建物内にエアコンがないため、夏場は暑い。

【村田副会長】

9月や10月など、秋以降の開催がよいか。

【石野委員】

下馬場も、1階の和室にはクーラーがあるが、2階にはない。

【村田副会長】

いずれにせよ、秋の開催がよい。暖房はあるのか。

【齋藤委員】

暖房はある。冬でもよい。

【村田副会長】

それでは、開催時期は9月から10月くらいを目途としたい。

—次第5 事務連絡—

【村田副会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

・今後の日程

令和元年度第4回地域協議会 7月24日（水）午後6時～ 福祉交流プラザ

・当日配布資料

主要事業・プロジェクトの概要

ウィズじょうえつからのおたより

まちづくり市民大学 受講生募集の案内

【村田副会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課
南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。